

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月9日
【四半期会計期間】	第61期第1四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	クリナップ株式会社
【英訳名】	Cleanup Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 井上 強一
【本店の所在の場所】	東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
【電話番号】	03(3894)4771(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 小島 輝夫
【最寄りの連絡場所】	東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
【電話番号】	03(3894)4771(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 小島 輝夫
【縦覧に供する場所】	クリナップ株式会社生産本部 (福島県いわき市四倉町細谷字小橋前52番地) クリナップ株式会社営業本部中部支社 (愛知県名古屋市東区代官町34番29号) クリナップ株式会社営業本部関西支社 (大阪府大阪市西区靱本町1丁目11番7号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第60期 第1四半期連結 累計期間	第61期 第1四半期連結 累計期間	第60期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(百万円)	26,008	28,773	113,533
経常利益(百万円)	849	1,558	4,372
四半期(当期)純利益(百万円)	507	869	2,506
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	447	895	2,702
純資産額(百万円)	54,012	56,463	56,033
総資産額(百万円)	84,467	87,114	85,891
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	10.90	18.67	53.79
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	63.9	64.8	65.2
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,528	1,136	7,305
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	482	1,048	3,445
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	726	605	2,920
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	26,575	27,913	27,204

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社をいう。)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社をいう。以下同じ。）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興需要に加え、新政権による経済政策への期待から景気回復の動きをみせました。しかしながら、雇用情勢や所得環境が不安定な中、公共料金の値上げや社会保険料負担の増加などもあり、消費の先行きは不透明な状況で推移いたしました。

住宅設備機器業界におきましては、政府による住宅取得支援策に加え、消費税増税による駆け込み需要もあり、新設住宅着工戸数は平成24年9月より連続して前年同月を上回るなど、堅調な伸びをみせました。

このような中で当社グループは、『ステンレスエコキャビネット』を標準装備したシステムキッチン「クリンレディ」を中心として、平成25年6月に「hairo（はいろ）」のデザイン性を高めてフルモデルチェンジしたシステムバスルーム「ユアス」や高さのバリエーションが豊富になった洗面化粧台「ティアリス」や「S[エス]」等、付加価値の高い商品を市場に提供してまいりました。

販売面では、大切な顧客接点であるショールームでの価値提供強化を図るために、全国102ヶ所のショールームを活用した新商品フェアを実施し、当社の会員登録制組織「水まわり工房」加盟店をはじめとした流通パートナーとの連携も深めながら、需要の拡大、獲得に努めてまいりました。

生産面では、引き続きVE活動を推進し、原価低減に努めました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高を部門別にみますと、厨房部門では、システムキッチン「S.S.」は数量、金額とも増、「クリンレディ」は数量、金額とも大幅増、「ラクエラ」も数量、金額とも大幅増となりました。この結果、厨房部門の売上高は前年同期比12.6%増の217億9千3百万円となりました。

浴槽・洗面部門では、システムバスルーム「アクリアバス」は数量、金額とも微増、「hairo（はいろ）」も数量、金額とも増、洗面化粧台においても数量、金額とも増となりました。この結果、浴槽・洗面部門の売上高は前年同期比3.4%増の56億6千7百万円となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比10.6%増の287億7千3百万円となりました。利益面では営業利益は同80.8%増の16億2千4百万円、経常利益は同83.5%増の15億5千8百万円、四半期純利益は同71.2%増の8億6千9百万円となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ7億9百万円（2.6%）増加して279億1千3百万円となりました。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期連結累計期間において、営業活動によって得られた資金は11億3千6百万円（前年同期比25.6%減）となりました。これは税金等調整前四半期純利益が15億4千8百万円と前年同期比6億9千6百万円の増益で、減価償却費が6億6千7百万円、売上債権の減少8億9千7百万円、未払金の増加3億6千8百万円等があった一方、たな卸資産の増加7億6千5百万円、賞与引当金の減少9億6千7百万円、法人税等の支払額7億2千4百万円があったこと等によるものです。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期連結累計期間において、投資活動の結果使用した資金は10億4千8百万円（前年同期比117.3%増）となりました。これは生産設備の増設及び改修等により有形固定資産の取得に伴う支出が6億1千3百万円、情報システム構築に伴う支出が4億3千4百万円あったこと等によるものです。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期連結累計期間において、財務活動の結果得られた資金は6億5百万円（前年同期は7億2千6百万円の使用）となりました。これは長期借入金の約定返済3億9千9百万円、配当金の支払いが4億6千6百万円あった一方、短期借入れによる収入が15億円あったこと等によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、2億6千万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループの連結売上高に占める厨房部門の売上高割合は、当第1四半期連結累計期間75.7%、前連結会計年度76.9%となっております。新設住宅着工戸数は前年を上回る伸びをみせ、リフォーム市場も含めて堅調な推移をみせましたが、雇用情勢や所得環境が不安定な中、公共料金の値上げや社会保険料負担の増加などもあり、消費の先行きは不透明な経済環境の中、競合他社との競争が一層激化するものと思われ、消費者ニーズに適宜対応できなかった場合において、厨房部門のシステムキッチンの販売動向に影響し、当社グループの経営成績に影響を与えることが考えられます。こうした状況下、『ステンレスエコキャビネット』を標準装備したシステムキッチン「クリンレディ」を中心として、平成25年6月に「hair o(はいる)」のデザイン性を高めてフルモデルチェンジしたシステムバスルーム「ユアシス」や高さのバリエーションが豊富になった洗面化粧台「ティアリス」や「S[エス]」等付加価値の高い商品を市場に提供してまいりました。併せて、大切な顧客接点であるショールームでの価値提供強化を図るために、全国102ヶ所のショールームを活用した新商品フェアを実施し、当社の会員登録制組織「水まわり工房」加盟店をはじめとした流通パートナーとの連携も深めながら、需要の拡大、獲得に努めてまいりました。

当社グループの収益は、革新的な商品とサービスを提供することによっております。今後も継続して、当社独自の画期的な新商品開発による他社との差別化ができるよう、産産・産学連携を含め積極的な体制をとってまいります。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの資金状況につきましては、営業活動の結果得られた資金は、前年同期に比べ3億9千1百万円減少し、11億3千6百万円となりました。

投資活動の結果使用した資金は、前年同期に比べ5億6千5百万円増加し、10億4千8百万円となりました。

財務活動の結果得られた資金は、6億5百万円（前年同期は7億2千6百万円の使用）となりました。

なお、詳細につきましては、第2[事業の状況]3[財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析]

(2) キャッシュ・フローの状況に記載しておりますのでご参照下さい。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末の資金は、前連結会計年度末に比べ7億9百万円増加し、279億1千3百万円となりました。

当社グループは、現在、運転資金及び設備投資資金について、内部留保資金又は借入により調達することとしております。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループは、高品質、高付加価値の革新的な商品を開発できると自負しており、また、市場に評価される新商品を提供し、営業政策を通じて需要を創造し続けることが使命と認識しておりますが、競合他社動向を意識した新商品開発に各社積極的になり、業界環境はさらに厳しさを増しております。この状況下で、先行優位、競争優位を維持するために、常々商品の機能を強化し差別化に努めるとともに、商品開発期間の短縮も行っておりますが、商品のライフサイクルも短縮化傾向にあり、開発コストの負担も増大しています。しかしながら、当社グループの将来の成長は、革新的な商品とサービスの提供にあると確信しており、今後も業界の標準を変える様な商品を開発し、業績に繋げてまいります。

また、当社グループは、ステンレスという素材を生かした他社にない商品づくりを特長のひとつとしております。ステンレス等原材料価格高騰は、当社グループの業績へ影響を与える可能性がありますが、その影響を最小にする取り組みを継続いたします。

さらに、生産の東西バランス再編を踏まえながら原価低減や全社的なコスト削減にも継続して努めてまいりたいと考えております。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	130,000,000
計	130,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	46,942,374	46,942,374	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100 株であります。
計	46,942,374	46,942,374	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	-	46,942,374	-	13,267	-	12,351

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 350,700	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 46,577,900	465,779	-
単元未満株式	普通株式 13,774	-	-
発行済株式総数	46,942,374	-	-
総株主の議決権	-	465,779	-

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
クリナップ株式会社	東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号	350,700	-	350,700	0.74
計	-	350,700	-	350,700	0.74

（注）当第1四半期会計期間末日現在の自己株式数は350,808株であります。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）及び第1四半期連結累計期間（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）に係る四半期連結財務諸表について、明和監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	24,690	25,399
受取手形及び売掛金	3 24,931	3 24,679
電子記録債権	2,464	2,152
有価証券	2,713	2,713
商品及び製品	874	1,523
仕掛品	103	99
原材料及び貯蔵品	970	970
その他	2,143	2,237
貸倒引当金	44	44
流動資産合計	58,847	59,731
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,498	8,663
その他(純額)	10,998	10,892
有形固定資産合計	19,496	19,555
無形固定資産	1,867	2,168
投資その他の資産		
投資有価証券	3,074	3,086
その他	2,703	2,670
貸倒引当金	98	97
投資その他の資産合計	5,679	5,658
固定資産合計	27,043	27,382
資産合計	85,891	87,114



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	6,849	6,888
短期借入金	1,599	3,099
未払金	10,534	10,686
未払法人税等	746	661
賞与引当金	1,289	321
資産除去債務	2	5
その他	1,072	1,640
流動負債合計	22,094	23,303
固定負債		
長期借入金	3,168	2,768
退職給付引当金	1,793	1,745
役員退職慰労引当金	424	424
資産除去債務	354	352
その他	2,021	2,055
固定負債合計	7,762	7,346
負債合計	29,857	30,650
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	13,267	13,267
資本剰余金	12,351	12,351
利益剰余金	30,183	30,587
自己株式	224	224
株主資本合計	55,578	55,981
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	450	458
為替換算調整勘定	5	23
その他の包括利益累計額合計	455	482
純資産合計	56,033	56,463
負債純資産合計	85,891	87,114

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	26,008	28,773
売上原価	16,882	18,588
売上総利益	9,125	10,185
販売費及び一般管理費	8,227	8,561
営業利益	898	1,624
営業外収益		
受取利息	4	3
受取配当金	36	41
仕入割引	63	71
その他	56	49
営業外収益合計	161	166
営業外費用		
支払利息	19	11
売上割引	169	189
その他	22	31
営業外費用合計	210	231
経常利益	849	1,558
特別利益		
固定資産売却益	0	-
投資有価証券売却益	15	-
特別利益合計	15	-
特別損失		
固定資産除売却損	8	8
投資有価証券評価損	3	1
減損損失	1	0
特別損失合計	12	9
税金等調整前四半期純利益	852	1,548
法人税等	344	679
少数株主損益調整前四半期純利益	507	869
四半期純利益	507	869

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	507	869
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	68	7
為替換算調整勘定	8	18
その他の包括利益合計	60	26
四半期包括利益	447	895
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	447	895
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	852	1,548
減価償却費	648	667
賞与引当金の増減額(は減少)	861	967
売上債権の増減額(は増加)	2,144	897
たな卸資産の増減額(は増加)	986	765
仕入債務の増減額(は減少)	168	39
未払金の増減額(は減少)	209	368
その他	267	39
小計	1,907	1,827
利息及び配当金の受取額	41	44
利息の支払額	21	10
法人税等の支払額	398	724
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,528	1,136
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	291	613
有形固定資産の売却による収入	2	-
無形固定資産の取得による支出	215	434
投資有価証券の取得による支出	200	0
投資有価証券の償還による収入	200	-
その他	22	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	482	1,048
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	33	1,500
長期借入金の返済による支出	433	399
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	233	466
その他	26	28
財務活動によるキャッシュ・フロー	726	605
現金及び現金同等物に係る換算差額	7	14
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	327	709
現金及び現金同等物の期首残高	26,248	27,204
現金及び現金同等物の四半期末残高	26,575	27,913

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

金融機関からの借入金に対する保証債務は、次の通りであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
従業員	37百万円	従業員 39百万円

2 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形裏書譲渡高	2,574百万円	2,893百万円

3 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形	817百万円	573百万円
受取手形裏書譲渡高	234	197

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次の通りであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
現金及び預金勘定	24,062百万円	25,399百万円
有価証券勘定	2,512	2,713
償還までの期間が3か月を超える債券	-	200
現金及び現金同等物	26,575	27,913

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	232	5	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	465	10	平成25年3月31日	平成25年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

当社グループは、住宅及び店舗・事業所用設備機器関連事業とその他事業を行っておりますが、報告セグメントは単一セグメントであり、重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	10円90銭	18円67銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	507	869
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	507	869
普通株式の期中平均株式数(千株)	46,591	46,591

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年8月9日

クリナップ株式会社  
取締役会 御中

明和監査法人

代表社員 業務執行社員 公認会計士 西川 一男 印

業務執行社員 公認会計士 鈴木 誠 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているクリナップ株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、クリナップ株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。